

Ⅱ. 調査レポート

(干潟以外調査)

生物調査（干潟以外）のレポート①

実施・主催機関	調査場所・地点名	実施日	調査内容
国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所	東京湾内	(1) 8月8日 (2) 8月1日 8月8日	(1) 海底に生息する底生生物 (2) 浅場に生息する水生生物

生物調査の結果（1）

団体名	国土交通省関東地方整備局東京空港整備事務所		
調査地点名	St. 5、St. 10、St. 12、St. 15、St. 18、St. ①		
位置座標 (可能であれば)	緯度	St. 5 35° 33′ 37.2″、St. 10 35° 32′ 10.2″ St. 12 35° 31′ 29.4″、St. 15 35° 31′ 18.0″ St. 18 35° 31′ 04.2″、St. ① 35° 31′ 42.0″	
	経度	St. 5 139° 48′ 11.4″、St. 10 139° 48′ 39.0″ St. 12 139° 48′ 03.0″、St. 15 139° 48′ 21.0″ St. 18 139° 48′ 43.8″、St. ① 139° 47′ 30.0″	
実施年月日	令和 6 年 8 月 8 日		

【対象生物】

海底に生息する底生生物

【調査結果】

出現種類数は0～24種類の範囲であり、St. 5では生物が出現せず、St. ①で最も多かった。

出現個体数はSt. 5を除き、14～3,013個体/m²の範囲であり、St. 12で最も少なく、St. ①で最も多かった。

出現種の湿重量はSt. 5を除き、0.01g未満～62.07g/m²の範囲で、St. 12で最も少なく、St. ①で最も多かった。

主な出現種は環形動物門のシノブハネエラスピオ、*Mediomastus* sp.、ハナオカカギゴカイ、イトエラスピオ、軟体動物のアサリおよびアラムシロガイであった。

表 底生生物の調査結果概要

項目/調査地点		St. 5	St. 10	St. 12	St. 15	St. 18	St. ①
出現種類数		0	5	2	5	5	24
出現個体数 (個体/m ²)	環形動物		1,486	14	954	681	2,234
	軟体動物						333
	節足動物						246
	その他						200
	合 計	0	1,486	14	954	681	3,013
出現湿重量 (g/m ²)	環形動物		2.99	+	19.74	3.46	3.73
	軟体動物						57.80
	節足動物						0.27
	その他						0.27
	合 計	0.00	2.99	+	19.74	3.46	62.07
主な出現種 個体数 (個体/m ² (%))	環形動物		シゾフハネエラスビ ^オ (65.1) ハサオカキ ^コ カイ (26.4)	Eteone sp. (50.0) シゾフハネエラスビ ^オ (50.0)	シゾフハネエラスビ ^オ (74.7) ハサオカキ ^コ カイ (17.5)	イトエラスビ ^オ (59.8) シゾフハネエラスビ ^オ (33.3)	Mediomastus sp. (40.1) ハサオカキ ^コ カイ (11.7)
	軟体動物						
主な出現種 湿重量 (g/m ² (%))	環形動物		シゾフハネエラスビ ^オ (77.9) ハサオカキ ^コ カイ (17.7)	Eteone sp. (50.0) シゾフハネエラスビ ^オ (50.0)	シゾフハネエラスビ ^オ (98.6)	シゾフハネエラスビ ^オ (96.2)	
	軟体動物						アサリ (53.5) アラムシロカイ (39.2)

注：1. 主な出現種は、各調査地点の出現個体数および出現湿重量の上位5種(ただし、種別組成比、湿重量比が10%以上)を示す。

2. 主な出現種の()内の数値は、出現した個体数または湿重量に対する比率(%)を示す。

3. 表中の「+」は0.01 g 未満であることを示す。

主な出現種を以下の写真に示す。



環形動物門：シノブハネエラスピオ



環形動物門：Mediomastus sp.



環形動物門：ハナオカカギゴカイ



環形動物門：イトエラスピオ



軟体動物門：アサリ



節足動物門：アラムシロガイ

※写真中の1メモリは、1mmを示す。

【調査の様子】

グラブ式採泥器を用いて1地点で底質を3回採取し、0.5mm目のフルイでふるった後に残ったものを試料とした。試料を保存容器に入れて約10%濃度のホルマリンで固定し、分析室にて出現種の同定、個体数の計数、湿重量の測定を行った。



グラブ式採泥器



ふるい状況



底生生物試料

生物調査の結果（２）

団体名	国土交通省関東地方整備局東京空港整備事務所	
調査地点名	① Stn. 1、②Stn. 2、③Stn. 3、④Stn. 4、⑤St. F、⑥St. 9-2´	
位置座標 (可能であれば)	緯度	①N35° 33′ 59″、②N35° 34′ 01″、③N35° 33′ 55″、 ④N35° 33′ 56″、⑤N35° 32′ 08″、⑥N35° 32′ 01″
	経度	①E139° 47′ 27″、②E139° 47′ 31″、③E139° 47′ 31″、 ④E139° 47′ 35″、⑤E139° 48′ 21″、⑥E139° 48′ 18″
実施年月日	① ～⑤：令和6年8月1日、⑥：令和6年8月8日	

【対象生物】

浅場に生息する水生生物

【調査結果概要】

浅場に生息する主な確認種の代表的な写真は以下のとおりです。

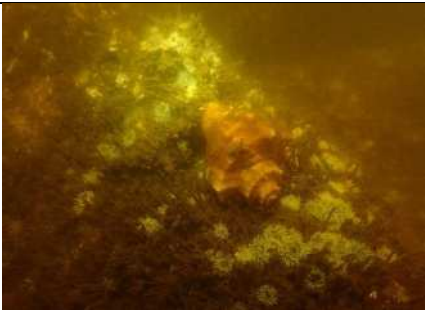
	
ウミエラ目	ウミサボテン
	
アカニシ	イトマキヒトデ
	
シロボヤ	イソギンチャク目

写真-1 主な確認種

【底生動物調査結果】

底生動物調査①

底生動物調査①は Stn. 1 から Stn. 4 で実施しました。

底生動物調査①の結果は以下のとおりです。

表-1 底生動物調査①確認種

調査期日：令和6年8月1日

調査方法：エクマンバージ型採泥器による3回採泥

単 位：1m²あたりの個体数および湿重量(g)

番号	門	調査地点 種名	Stn. 1		Stn. 2		Stn. 3		Stn. 4	
			個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	刺胞動物	イソギンチャク目	15	+						
2	紐形動物	紐形動物門			119	0.15			119	+
3	軟体動物	ホソビノスカイ			15	13.78				
4		アザリ	15	5.33	44	35.26				
5		ヒメシトリカイ	15	28.30						
6		シズクカイ	44	0.74	15	0.15				
7	環形動物	アルハチロリ			15	+	15	2.37		
8		<i>Glycinde</i> sp.					30	0.15		
9		クレオトヒメ	15	+						
10		ニホンカキコカイ	15	0.15	15	+				
11		ハナオカキコカイ	2,148	2.81	1,985	1.63	1,081	1.93	1,096	0.89
12		カンサコカイ科			30	+	44	0.15		
13		ハヤテシロガネコカイ	15	1.04						
14		カタマカリキボシイソメ			15	0.44	59	0.74		
15		ケンサキスピオ	267	0.44	44	0.15	30	0.15	15	+
16		スハスハハネエラスピオ	15	+	15	+				
17		シノフハネエラスピオ	2,800	21.33	3,570	19.56	1,970	23.26	1,733	14.52
18		<i>Polydora</i> sp.	4,044	1.19	133	+				
19		ミツハネスピオ	326	0.44	30	+	133	0.15		
20		イトエラスピオ	1,304	0.30	948	0.30	356	0.15	830	0.15
21		<i>Scoelepis</i> sp.	59	0.30						
22		ミスヒキコカイ	15	4.74	15	0.15			15	4.89
23		<i>Tharyx</i> sp.	15	0.30						
24		<i>Mediomastus</i> sp.	4,030	3.70	5,644	4.89	1,452	1.04	1,585	1.33
25		<i>Notomastus</i> sp.	15	+						
26		チマキコカイ	15	0.30	30	1.19			15	0.30
27		アリアケカンムリ	237	+						
28		<i>Chone</i> sp.	296	1.78	148	0.59	59	0.74	44	0.44
29		ケヤリムシ科	15	+						
30	節足動物	ウレカラ属	15	+						
31		イッカクモカニ	44	4.44						
32	簪虫動物	<i>Phoronis</i> sp.			133	0.59			15	0.15
種 類 数			25		20		11		10	
合 計			15,794	77.63	12,963	78.83	5,229	30.83	5,467	22.67

注：「+」がある場合、個体数欄は群体等の出現を、湿重量欄は0.01g未満を示す。

底生動物調査②

底生動物調査②は St. ⑨-2 で実施しました。

底生動物調査②の確認種結果は以下のとおりです。

表-2 底生動物調査②確認種

調査期日：令和6年8月8日

調査方法：スミス・マッキンタイヤ型採泥器またはエクマンバージ型採泥器による3回採泥

単 位：1m²あたりの個体数および湿重量(g)

番号	門	種名	調査地点	St. ⑨-2'	
				個体数	湿重量
1	刺胞動物	イソギンチャク目		30	0.89
2	紐形動物	紐形動物門		474	1.48
3	軟体動物	アラムシロ		30	17.93
4		ホトギスガイ		385	2.96
5		ホンビノスガイ		30	0.15
6		アサリ		622	14.37
7		マテガイ		756	22.96
8		シオフキ		119	8.30
9	環形動物	<i>Eteone</i> sp.		385	0.59
10		ハナオカギコカイ		30	0.15
11		ヤマトスピオ		193	+
12		コオニスピオ		133	+
13		アミオニスピオ		356	0.30
14		<i>Rhynchospio</i> sp.		133	+
15		<i>Spio</i> sp.		44	0.15
16		ミスヒキコカイ		89	8.89
17		<i>Capitella</i> sp.		59	+
18		<i>Mediomastus</i> sp.		607	0.89
19		ツツオフェリア		74	0.15
20	節足動物	ニッポントロソコエビ		89	0.15
21		ミツオビクマ		59	+
種 類 数			21		
合 計			4,697 80.31		

注：「+」がある場合、個体数欄は群体等の出現を、湿重量欄は0.01g未満を示す。

【魚介類 潜水目視調査】

潜水目視調査①

潜水目視調査①はL1（Stn.1とStn.2を結ぶ測線）、L2（Stn.3とStn.4を結ぶ測線）で実施しました。

潜水目視調査①結果は以下のとおりです。

表-3 潜水目視調査結果

種名	L1(Stn.1～Stn.2)	L2(Stn.3～Stn.4)
海綿動物門	●	●
ヒドロ虫綱	●	●
ウミサボテン	●	●
イソギンチャク目	●	●
アラムシロ	●	●
頭足綱（卵）		●
ナミマガシワガイ	●	●
イタボガキ科	●	●
アサリ	●	
ツバサゴカイ科（棲管）	●	●
ミズヒキゴカイ科	●	●
カンザシゴカイ科	●	●
ヒメホウキムシ	●	●
苔虫動物門	●	●
モミジガイ	●	
キヒトデ	●	
アカエイ	●	●
マゴチ	●	●
クロダイ	●	
マハゼ	●	●
キララハゼ属	●	
種数	20種	16種

潜水目視調査②

潜水目視調査②は⑤ St.F で実施しました。

潜水目視調査②の結果は以下のとおりです。

表-4 潜水目視調査結果

確認種
海綿動物門
ヒドロ虫綱
ウミサボテン
ウミエラ目
タテジマイソギンチャク
イソギンチャク目
レイシガイ
イボニシ
アカニシ
アッキガイ科（卵）
ミドリイガイ
イタボガキ科
ツバサゴカイ科（棲管）
ミズヒキゴカイ科
カンザシゴカイ科
ヤドカリ亜目
イシガニ
苔虫動物門
モミジガイ
イトマキヒトデ
シロボヤ
ホヤ綱（群体ボヤ類）
ボラ
クロダイ
マハゼ

生物調査（干潟以外）のレポート②

実施・主催機関	調査場所・地点名	実施日	調査内容
東京都環境局自然環境部 水環境課	東京湾内	(1) 8月13日 (2) 8月5日 (3) 9月27日 (4) 8月2日 (5) 8月19日	(1) プランクトン (2) 稚魚 (3) 成魚 (4) 鳥類 (5) 底生生物

プランクトン調査結果

東京都環境局自然環境部水環境課

東京都環境局では、水質汚濁防止法第16条の測定計画に基づく毎月の水質測定調査時に加え、夏季期間中に延べ17日間の赤潮調査（上位5種）を実施し、概ね毎週、赤潮発生の推移を見ている。ここでは令和6年8月13日に実施した赤潮調査の結果を報告する。

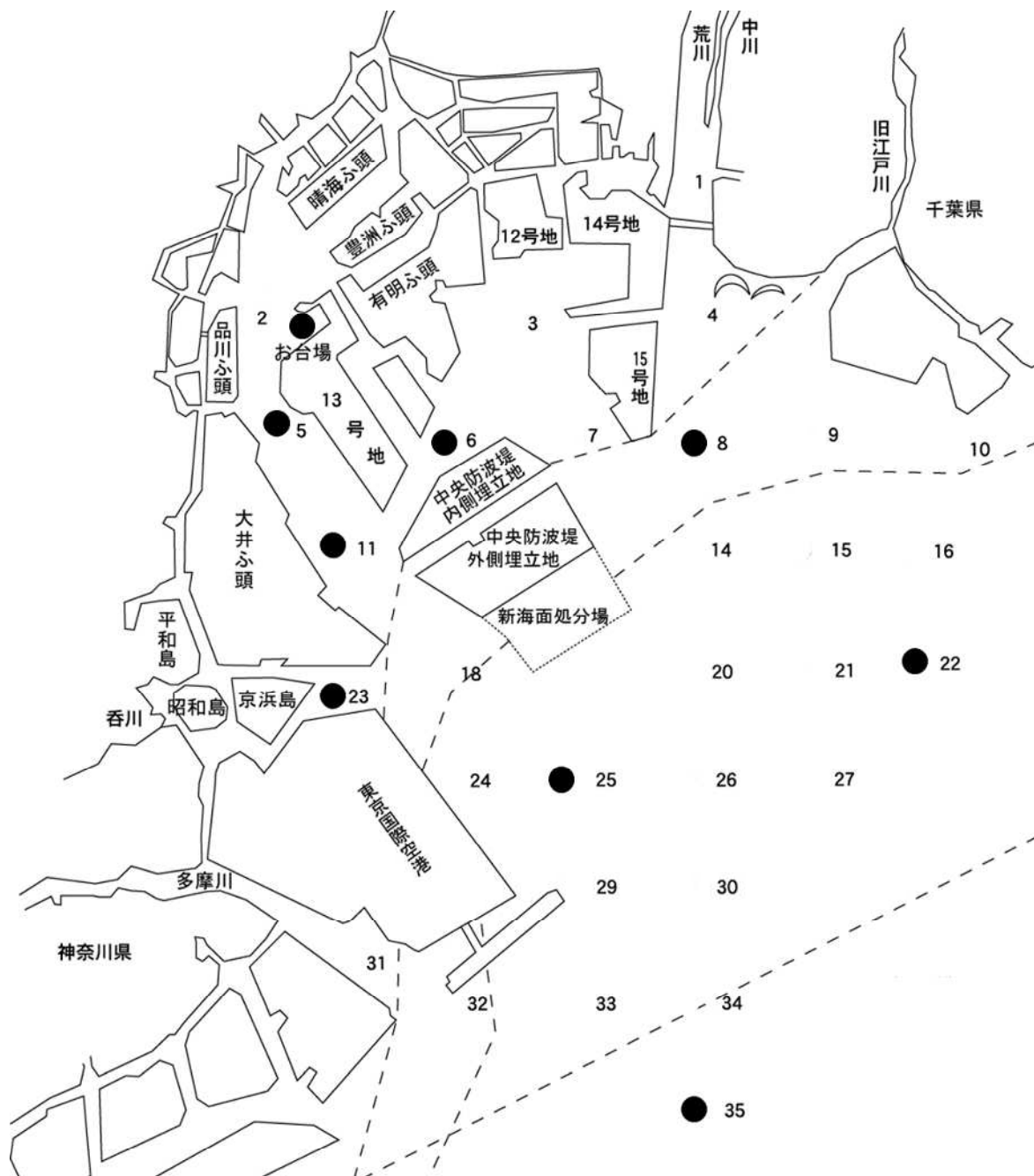
【調査実施日・地点】

令和6年8月13日 東京都内湾8地点（お台場, St.6, 8, 11, 22, 23, 25, 35）

【調査前の天候】

調査前5日間は降雨がなく、最高気温が35℃前後の日が続いた。

当日の天候は晴、最高気温は34.9℃（東京）であった。



【調査結果】

沖合の St.22 と St.35 を除いた 6 地点で赤潮が確認され、表流水の影響を受けやすい St.8 と St.23 を除き底層の溶存酸素量が 2.0 mg/L 未満の貧酸素状態であった。

赤潮調査では、1 回の調査につき数地点で表層水を採水し、動植物プランクトン優占 5 種の定量を実施している。8 月 13 日は St.6、St.8 の 2 地点で採水し定量を行った。

結果は表のとおり、細胞数では珪藻の *Skeletonema costatum* が最多となり、次いで *Chaetoceros* spp.、*Thalassiosira* spp.の順に多かった。このほか、Thalassiosiraceae や Cryptomonadaceae が優占 5 種に入った。動物プランクトンでは繊毛虫類の Oligotrichida が多く、このほか *Mesodinium rubrum* や *Tintinnopsis* sp.などが見られた。

表 8/13 赤潮調査におけるプランクトン（優占 5 種）定量結果

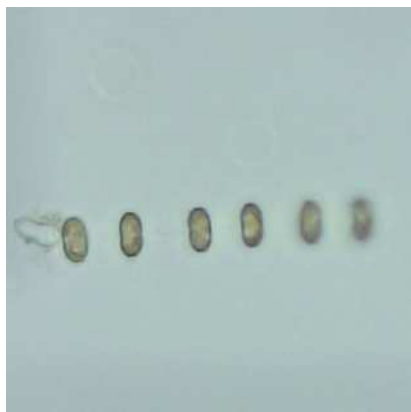
調査地点	St.6	St.8
採取年月日	8/13	8/13
植物プランクトン		
種名	細胞数(×10 ⁶ 細胞数/m ³)	
Cryptomonadaceae	3,380	4,900
<i>Skeletonema costatum</i>	25,700	25,400
<i>Thalassiosira</i> spp.	20,200	7,700
Thalassiosiraceae	4,180	3,960
<i>Chaetoceros</i> spp.	23,400	9,000
other phytoplankton	13,200	10,700
動物プランクトン		
種名	個体数(×10 ⁶ 個体数/m ³)	
<i>Mesodinium rubrum</i>	6.74	4.21
<i>Tintinnopsis</i> sp.		5.89
<i>Eutintinnus</i> sp.	2.53	3.37
Oligotrichida	25.30	20.6
Hypotrichida	2.53	
Ciliata	5.05	5.47
other zooplankton	5.58	4.74

◎調査で観察された主なプランクトン

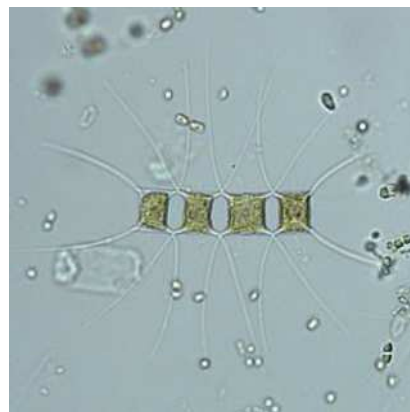
・植物プランクトン



珪藻 *Skeletonema costatum*



珪藻 *Thalassiosira* sp.



珪藻 *Chaetoceros* sp.

・動物プランクトン



繊毛虫 *Tintinnopsis* sp.



繊毛虫 *Eutintinnus* sp.

水生生物調査結果

東京都環境局自然環境部水環境課

東京都環境局では、東京都内湾部、浅海部、干潟部において水生生物調査を実施している。

令和6年8月から9月に掛けて、稚魚、成魚、鳥類、底生生物の各種調査を実施した。

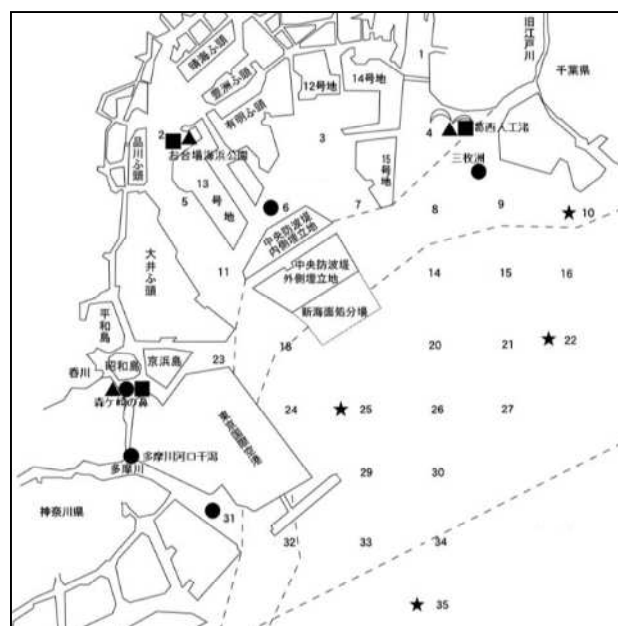
なお、稚魚調査は小型地引網、成魚調査は小型底引網を用いて調査している。

【調査実施日】

稚魚：8月5日、成魚：9月27日、鳥類：8月2日、底生生物：8月19日

【調査地点】

調 査 地 点		稚魚	成魚	鳥類	底生生物
内湾部	St.6				●
	St.22		★		
	St.25		★		
	St.35		★		
浅海部	St.10（江戸川河口・高洲）		★		
	三枚洲（荒川河口）				●
	St.31（多摩川河口）				●
干潟部	葛西人工渚	▲		■	
	お台場海浜公園	▲		■	
	森ヶ崎の鼻	▲		■	●
	多摩川河口干潟				●
地 点 数		3	4	3	5



【調査結果概要】

1. 稚魚調査（8月5日）

天気は晴、調査当日は大潮で、全地点で赤潮が発生していた。

採取された主な魚種は次のとおり。（速報のため、種名等は未確定）

全地点において、ビリンゴ、マハゼ、ギマが出現した。

		お台場	森ヶ崎 の鼻	葛西 人工渚
魚 類	ハゼ科	c		
	マハゼ	c	r	+
	ヒメハゼ		+	
	チクゼンハゼ		r	
	シモフリシマハゼ			+
	コノシロ	m	r	
	ビリンゴ	m	+	+
	トウゴロウイワシ	c	m	
	カライワシ			c
	マゴチ		+	
	ギマ	r	r	+
	チチブ属	+		c
魚 類 以 外	ニホンイサザアミ	m		
	シラタエビ	r	r	+
	エビジャコ属		r	m
	アキアミ	r		
	ユビナガスジエビ			m
	ニッポンドロソコエビ		r	
	イシガニ	r		

G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5～20 個体未満、r:5 個体未満

○調査で確認した主な種



2. 成魚調査（9月27日）

当日の天候は雨時々曇、潮差は長潮であった。採取された主な種は次のとおり。（速報のため、種名は未確定）

St.35 を除き下層は貧酸素状態であり、生体の出現は St.35 のツバクロエイ、St.10 のホンビノスガイ、サルボウガイのみであった。

		St.35	St.25	St.22	St.10
	下層DO[mg/L]	4.4	0.7	3.1	2.0
魚類	ツバクロエイ	r			
魚類	ホンビノスガイ				+
以外	サルボウガイ				r

+ : 5~20 個体未満、r : 5 個体未満

○調査で確認した主な種



3. 底生生物調査（8月19日）

採取された種は次のとおり。（速報のため、種名は未確定）

St.6 では水深 11.5 m のところ、水深約 6.0 m 以深が貧酸素状態にあり、水底付近は無酸素状態であった。

例年同様、St.6 では生きた個体は確認されなかった。

	出現種
多摩川河口干潟	ヤマトシジミ、ソトオリガイ、ムロミスナウミナナフシ
森ヶ崎の鼻	ヤマトシジミ、ホトトギスガイ、ヨコエビ類、ムロミスナウミナナフシ、ゴカイ科、紐型動物門
St.6	生体は確認されず
三枚洲（荒川河口）	アサリ、ホンビノスガイ、アラムシロガイ、クチキレガイ、チロリ属、シノブハネエラスピオ
St.31(多摩川河口)	アサリ、アラムシロ、ホトトギスガイ、ホンビノスガイ、カンザシゴカイ、ミズヒキゴカイ、ケヤリムシ科

○調査で確認した主な種



4. 鳥類調査（8月2日）

当日の天候は晴、潮差は中潮であった。出現種と数は次のとおり。

東京都レッドデータブック 2023（区部）で絶滅危惧ⅠA類（CR）に指定されているダイシャクシギが葛西人工渚で、ササゴイとコチドリが森ヶ崎の鼻でそれぞれ確認された。また、絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されているコサギ、キアシシギ、イソシギが3地点すべてで確認された。

さらに、環境省のレッドリスト（2020）で準絶滅危惧（NT）に指定されているカラシラサギ、オオセグロカモメ、ミサゴが葛西人工渚で確認された。

	葛西人工渚 (東なぎさ) ※沖合含む	森ヶ崎の鼻	お台場 海浜公園
確認された種数	14種	14種	11種
カルガモ	15	4	7
スズガモ			1
カワウ	3899	179	1035
ササゴイ		1	
アオサギ	31	45	24
ダイサギ	22	7	11
コサギ	17	10	5
カラシラサギ	2		
コチドリ		1	
ダイシャクシギ	2		
キアシシギ	5	3	5
ソリハシシギ	1		
イソシギ	1	5	6
キョウジョシギ			2
ユリカモメ		1	
ウミネコ	1372	68	3
セグロカモメ	1		
オオセグロカモメ	23	1	
ミサゴ	1		
トビ		2	6
ハクセキレイ		4	

○調査で確認した主な種



生物調査（干潟以外）のレポート③

実施・主催機関	調査場所・地点名	実施日	調査内容
東京都板橋区	白子川	8月1日	魚類、底生動物

生物調査の結果

団体名	東京都板橋区	
調査地点名	白子川 (1) 東埼玉橋 (2) 白藤橋	
位置座標 (可能であれば)	緯度	(1) N35.46.47 (2) N35.47.15
	経度	(1) E139.37.28 (2) E139.37.52
実施年月日	令和6年8月1日（木）	

令和 6 年度 白子川生物調査の概要

1 調査概要

① 調査地点及び調査日時等

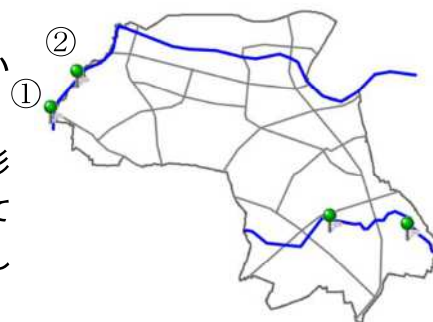
河川名	調査地点名	調査実施日	調査時間	気温(℃)	水温(℃)
白子川	①東埼橋上流付近	2024/8/1(木)	9:00～11:30	29.0	25.5
	②白藤橋付近	2024/8/1(木)	12:50～15:30	34.0	29.5

② 調査方法

各調査地点において投網、タモ網(手網)及びカゴ網を用いて、魚類、底生動物を採集した。

採集した個体は、現地で種の同定、個体の計測、写真撮影後、現地に再放流した。現地での同定が困難な個体については、10%ホルマリンで固定して持ち帰り、実体顕微鏡下で同定した。

なお、底生動物については、肉眼でみえる個体を採集対象とした。



調査状況写真



投網

タモ網

カゴ網

2 調査結果

① 河川状況

(1) 東埼橋上流付近

東埼橋直下に S 型の淵があり、更にその下流に高い落差工がある。増水によりかなり水位が上昇しなければこの落差を魚類が遡上することは困難と考えられる。淵の上流は水際が綱矢板等で護岸され、河床が布型枠等で護床されている。

カゴ網は子安橋の上・下流部で、やや淵状になっている2箇所を設置した。



(2) 白藤橋付近

河床はコンクリート張りであるが、白藤橋の下流約 100m の位置 に土砂が堆積しており、浅い淵と瀬が形成されている。

カゴ網は白藤橋の下流のやや淵状になっている2箇所を設置した。



② 魚類調査結果

白子川の2地点全体では、ニホンウナギ、ドジョウ、ヌマチチブなど、5目7科13種の魚類が確認された。

出現種のうち、「環境省 RL2020」に該当する種として、絶滅危惧ⅠB類に該当するニホンウナギ、準絶滅危惧に該当するドジョウが確認された。

「東京都レッドデータブック(本土部)2023」では、これまでの「区部」、「北多摩」、「南多摩」、「西多摩」の4地域の区分による評価に加え、全国の他の道府県との比較を容易にするため、すべての分類群において本土部全体としての評価も行われた。

「東京都 RDB2023 区部」及び「東京都 RDB2023 本土部」の絶滅危惧ⅠA類(CR)に該当するドジョウ、シマヨシノボリ、絶滅危惧ⅠB類(EN)に該当するニホンウナギ、準絶滅危惧(NT)に該当するスミウキゴリ、留意種に該当するヌマチチブが確認された。また、「東京都 RDB2023 区部」の絶滅危惧Ⅱ類(VU)及び「東京都 RDB2023 本土部」の絶滅危惧ⅠB類(EN)に該当するトウヨシノボリ類、「東京都 RDB2023 区部」の絶滅危惧Ⅱ類(VU)及び「東京都 RDB2023 本土部」の準絶滅危惧(NT)に該当するヒガシシマドジョウが確認された。

外来種については、国外外来種に関する種は確認されなかったが、未評価ではあるが、国内外来種としてカワムツが確認された。

No.	目名	科名	種名	白子川		合計	環境省 RL2020	東京都 RDB2023		外来種
				① 東埼橋 上流付 近	② 白藤橋 付近			区部	本土部	
1	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ		2	2	EN	EN	EN	
2	コイ目	コイ科	コイ(型不明)		12	12				
3			カワムツ	1		1				未評価※1
4			タモロコ	1	1	2				
5		ドジョウ科	ドジョウ	3		3	NT	CR	CR	
6			ヒガシシマドジョウ	3		3		VU	NT	
7	ボラ目	ボラ科	ボラ		10	10				
8	ダツ目	メダカ科	メダカ属※2	1	2	3				
9	スズキ目	スズキ科	スズキ		5	5				
10		ハゼ科	ヌマチチブ		10	10		留	留	
11			シマヨシノボリ	3	1	4		CR	CR	
12			トウヨシノボリ類	1		1		VU※3	EN※3	
13			スミウキゴリ	3		3		NT	NT	
計	5 目	7 科	13 種	種類数計	8	8	13	2	7	7
				個体数計	16	43	59			

注:1. 種名及び配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省、2023)に従った。

2. 表中の※は、以下の通りである。

※1…未評価であるが国内外来生物。自然分布は静岡県以西。(参考文献:中坊徹次編(2013) 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 2428pp. 東海大学出版会, 東京.)

※2…飼育品種と思われる。

※3…トウヨシノボリで掲載。

③ 底生動物調査結果

白子川全体では、チリメンカワニナ、シマイシビル、カワリヌマエビ属、コオニヤンマなど、11 目 18 科 24 種の底生動物が確認された。

出現種に、「環境省 RL2020」に該当している種はなかったが、「東京都 RDB2023 区部」及び「東京都 RDB2023 本土部」の留意種に該当する種として、テナガエビ及びモクズガニが確認された。

外来種については「条件付特定外来生物」と、「緊急対策外来種」に該当するアメリカザリガニが確認された。

No.	目	科	種名	白子川		環境省 RL 2020	東京都 RDB2023		外来種
				① 東埼玉橋 上流付近	② 白藤橋 付近		区部	本土部	
1	新生腹足目	カワニナ科	カワニナ	2					
2			チリメンカワニナ	11					
3	マルスダレガイ目	シジミ科	シジミ属	8	1				
4	イトミミズ目	ミズミミズ科	エラミミズ	1					
5	ツリミミズ目	ツリミミズ科	ツリミミズ科	2					
6		フトミミズ科	フトミミズ属	4					
7		—	ツリミミズ目	1					
8	吻無蛭目	イシビル科	シマイシビル	5	5				
9	ワラジムシ目	ミズムシ科(甲)	ミズムシ(甲)	4	1				
10	エビ目	ヌマエビ科	カワリヌマエビ属	41	12				
11		テナガエビ科	テナガエビ		2		留	留	
12		アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	5					条件付 /緊急
13		モクズガニ科	モクズガニ	3			留	留	
14	カゲロウ目	マダラカゲロウ科	エラブタマダラカゲロウ	2	2				
15	(蜉蝣目)	コカゲロウ科	サホコカゲロウ		1				
16			ウデマギリコカゲロウ	1	4				
17	トンボ目(蜻蛉目)	サナエトンボ科	コオニヤンマ	2	4				
18	トビケラ目	シマトビケラ科	コガタシマトビケラ		2				
19	(毛翅目)		ウルマーシマトビケラ	1					
20		クダトビケラ科	クダトビケラ属		1				
21	ハエ目(双翅目)	ガガンボ科	ガガンボ属	1	1				
22		ユスリカ科	ハダカユスリカ属		1				
23			ツヤユスリカ属		1				
24			ユスリカ亜科		1				
計	11 目	18 科	24 種	種類数計	17	15	0	2	2
				個体数計	94	39			1

○「環境省 RL2020」: 環境省版レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)2020 年

○「東京都 RDB2023 区部」、「東京都 RDB2023 本土部」: 東京都レッドデータブック(本土部)2023

留意種(留): 現時点では準絶滅危惧のレベルではないが、相対的に数が少ない種であり、生息・生育条件の変化に伴う理由により、その動向に留意する必要があるもの(理由本文を要約)

○外来種

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省に指定された種(2017)

条件付特定外来生物(条件付): 外来生物法に基づき特定外来生物に指定された生物のうち、通常の特定外来生物の規制の一部を、当分の間、適用除外とする(規制の一部がかからない)生物

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省に指定された種(2016)

緊急対策外来種(緊急): 対策の緊急性が高く、積極的に防除を行う必要がある。

3 経年変化について

東埼橋上流付近の確認種は、経年的にスミウキゴリやトウヨシノボリ類が多く、次いでドジョウなどが確認されている。調査水域は水深が浅く、瀬や淵、寄り州などの環境が少なく単調であるため、魚類にとっては生息環境が少ない地点で、確認種類数は、平成 22 年以前は 9 種、平成 23 年からは 3～6 種程度である。本年度はドジョウ、シマヨシノボリ、スミウキゴリのほか、前回調査で確認されなかったヒガシシマドジョウと、平成 29 年以降確認されなかったタモロコが再び確認された。また、カワムツが初めて確認された。メダカ属も初めて確認されたが、飼育品種と思われる。全体では 8 種の魚類が確認され、令和 4 年度に比べ種類数は増加したが、個体数は減少した。

白藤橋付近では、平成 22 年以前は 27 種、平成 23 年からはコイ、マルタ、アユ、ボラ、ヌマチチブなど 7～12 種が確認されており、本年度はコイ、ボラ、ヌマチチブなど、全体では 8 種の魚類が確認され、令和 4 年度に比べ種類数、個体数とも減少した。

この地点は砂泥や礫などの堆積があり、小規模ながら瀬、淵などの環境がある。廃棄された鉄パイプの中などにはニホンウナギが確認されている。また、この地点は感潮域でニホンウナギ、マルタ、アユ、スズキ、ボラ、スミウキゴリ、マハゼ、ヌマチチブなど汽水域に生息する魚種を中心に確認種類の多い地点である。本年度もニホンウナギ、ボラ、ヌマチチブなど汽水域に生息する種が確認されたが、マルタ、アユ、マハゼ、ウキゴリは確認されなかった。また、淡水魚であるオイカワ、アブラハヤ、モツゴも確認されなかった。しかしながら、前回調査で確認されなかったコイが再び確認されたほか、これまであまり確認されていなかったタモロコが、平成 29 年以来再び確認された。また、シマヨシノボリが初めて確認された。メダカ属も初めて確認されたが、飼育品種と思われる。

生息する種類や個体数の変動の要因としては、各調査地点とも河川構造が概ね単純な 3 面張り護岸となっており、近年多発するゲリラ豪雨等の急激な増水により河道が洗われてしまうため、大半の魚類が、下流に押し流されたり、逆に上流から流されて来たりすることによるものと考えられる。したがって、今後も魚類相の変化や個体数の変動について継続して把握することが必要であると考えられる。

魚類の経年調査結果

白子川①東埼橋上流付近

No.	目名	科名	種名	H14～22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R4	R6	環境省	東京都RDB2023		
																		区部	本土部	外来種
1	コイ目	コイ科	フナ属（含金魚）	○																
2			オイカワ	○														DD	DD	
3			カワムツ													1				未評価 ^{*4}
4			アブラハヤ	○		3							1		3			NT	NT	
5			モツゴ	○																
6			タモロコ	○			1			5						1				
7		ドジョウ科	ドジョウ	○	3	3	2	1	3	3	2	3	5	3	2	3	NT	CR	CR	
8			ヒガシシマドジョウ ^{*2}										1	1		3		VU	NT	
9	ダツ目	メダカ科	メダカ属													1 ^{*5}				
10	スズキ目	ハゼ科	シマヨシノボリ				2		2	2	6	2	2		8	3		CR	CR	
11			トウヨシノボリ類 ^{*3}	○	2	2	4	5		2	8	3	3		5	1		VU	EN	
12			ヨシノボリ属		1									1						
13			スミウキゴリ	○	3	4	9	4	9	9	15	10	13	14	13	3		NT	NT	
14			ウキゴリ	○														NT	NT	
	3目	4科	種類数合計	9	4	4	5	3	4	5	4	4	6	5	5	8	1	8	8	1

白子川②白藤橋付近

No.	目名	科名	種名	H14～22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R4	R6	環境省	東京都RDB2023		
																		区部	本土部	外来種
1	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ*	○	4	1		1	2	1		1	1	1	4	2	EN	EN	EN	
2	コイ目	コイ科	コイ（型不明）	○	20<	20<	20<	20<	20<	20<		20<	20<	10		12				
3			フナ属（含金魚）				1													
4			ダニオ垂科	○																
5			オイカワ	○	3										16			DD	DD	
6			アブラハヤ			1		2							2			NT	NT	
7			マルタ	○	16	2	7	2	4		100<				3			留	留	
8			モツゴ	○	1						5				1					
9			タモロコ	○		1					5					1				
10			ニゴイ		9									2				NT	NT	
11	ナマズ目	ナマズ科	ナマズ							1										
12	サケ目	アユ科	アユ	○	112	520	19	100<	100<	100<	4		100<	100<	1					
13	ボラ目	ボラ科	ボラ	○	13	1	86		9	5	100<	100<	6	8	3	10				
14	カダヤシ目	カダヤシ科	カダヤシ	○																特、重
15	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ		1						4						VU	CR	CR	
16			メダカ属													2 ⁵				
17	スズキ目	スズキ科	スズキ	○		1				5		3	1	3		5				
18		ハゼ科	マハゼ	○	3	2	4	1		2	5	100<	1	2	2					
19			ヌマチチブ	○	111	9	12	100<	100<	100<	100<	100<	39	47	10			留	留	
20			チチブ属	○																
21			シマヨシノボリ													1		CR	CR	
22			トウヨシノボリ類*	○				2			8							VU	EN	
23			ヨシノボリ属	○																
24			スミウキゴリ	○		3	1	9	1		1	6						NT	NT	
25			ウキゴリ	○		5					1	2	1		3			NT	NT	
26			ウキゴリ属	○																
27		タイワンドジョウ科	カムルチー										1							
8目 9科 種類数合計				27	11	12	9	9	7	8	11	8	9	8	10	8	2	11	11	1

○：過去調査において出現の記録があり。 H23 年以降の数値は確認個体数

*1)過年度調査ではウナギとして記載あり

*2)過年度調査ではシマドジョウとして記載あり

*3)トウヨシノボリ類の種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 2023」に従った。過年度調査ではトウヨシノボリ、旧トウヨシノボリ類として記載あり

*4)未評価であるが国内外来生物。自然分布は静岡県以西。（参考文献：中坊徹次編（2013）日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 2428pp. 東海大学出版会, 東京. ）

*5)飼育品種と思われる。

環境省：「環境省 RL2020」：環境省レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）2020 年

EN：絶滅危惧 IB類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧

東京都：「東京都 RDB2023 区部」、「東京都 RDB2023 本土部」：東京都レッドデータブック（本土部）2023

CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足

・外来種は、以下に従った。

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省. に指定された種（2017）

特：特定外来生物：外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもの

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省に指定された種（2016）

重：重点対策外来種 甚大な被害が予想されるため、対策の必要性が高い。

・種名及び配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 2023」に従った。

採取生物写真



ニホンウナギ



コイ(型不明)

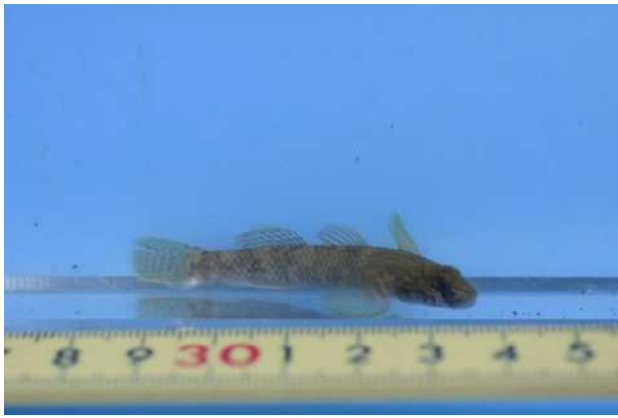


カワムツ



タモロコ

	
ドジョウ	ヒガシシマドジョウ
	
メダカ属	メダカ属
	
スズキ	ヌマチチブ



シマヨシノボリ



スミウキゴリ



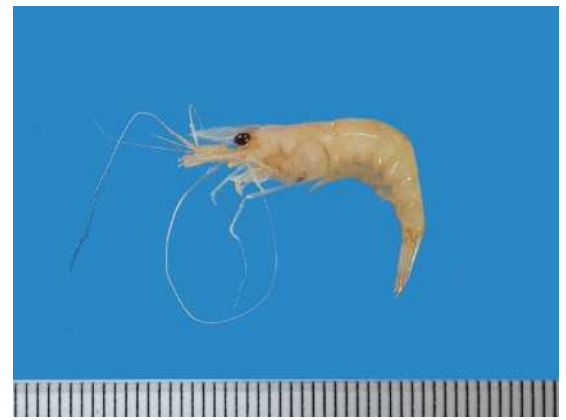
チリメンカワナ



シジミ属



カワリヌマエビ属



テナガエビ

	
コオニヤンマ	モクズガニ

問い合わせ先：板橋区資源環境部環境政策課自然環境保全係 電話：03-3579-259

生物調査（干潟以外）のレポート④

実施・主催機関	調査場所・地点名	実施日	調査内容
横浜市港湾局	横浜港本牧沖	8月27日、8月28日	遊水室内および周辺 水生生物

生物調査の結果

団体名	横浜市港湾局		
調査地点名	横浜港本牧沖		
位置座標 (可能であれば)	緯度		
	経度		
実施年月日	令和 6 年 8 月 27 日～28 日		

【調査位置】

図1に示す調査位置の護岸において、図2に示す3水深の遊水室内等を調査。



図1 調査位置図

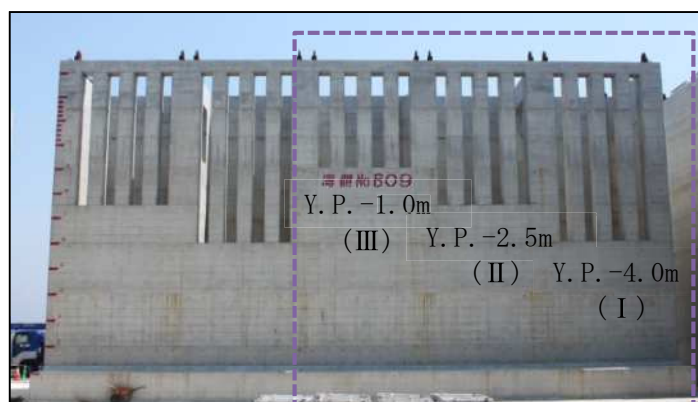


図2 調査対象遊水室

【調査方法】

Y. P. -1. 0m、Y. P. -2. 5m、Y. P. -4. 0m の3種類の水深の遊水室内、遊水室内底面を潜水士により目視調査、及び方形枠（50×50）を使用した坪刈りを行った。また、Y. P. -1. 0m の位置については、ケーソン前面、間詰石、根固めブロックについても同様の調査を行った。

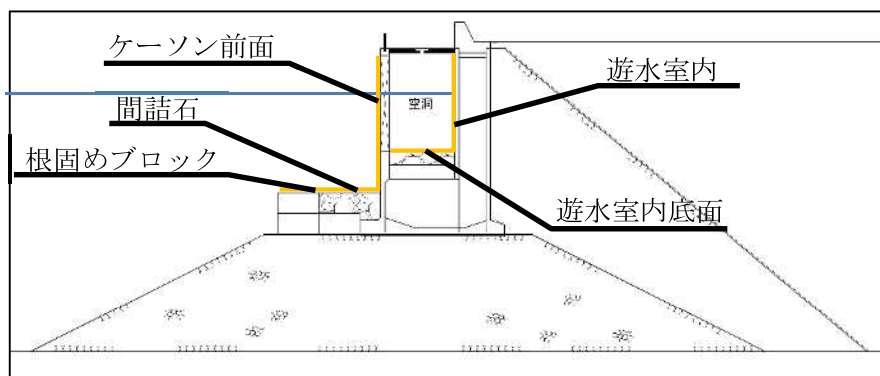


図3 調査位置断面図

【調査結果概要】

調査結果は以下のとおりである。

Y. P. -4. 0m の遊水室を持つ地点を地点（Ⅰ）、Y. P. -2. 5m を地点（Ⅱ）、Y. P. -1. 0m を地点（Ⅲ）とする。

表1 目視調査による出現種一覧（1）

区分	種名	遊水室内			遊水室内底面		
		（Ⅰ）	（Ⅱ）	（Ⅲ）	（Ⅰ）	（Ⅱ）	（Ⅲ）
植物	シオグサ属					●	●
	藍藻綱	●	●	●			
	珪藻綱	●	●	●	●	●	●
動物	海綿動物門	●	●	●	●	●	●
	ヒドロ虫綱	●	●	●	●	●	●
	タテジマイソギンチャク	●	●	●			●
	イソギンチャク目	●	●	●	●	●	●
	アラレタマキビ		●	●			
	イボニシ	●	●	●	●		●
	クロシタナシウミウシ	●					
	ミドリイガイ	●	●	●		●	●
	マガキ	●	●	●		●	●
	ウスカラシオツガイ+ホトトギスガイ(マツト)			●	●	●	●
	ミズヒキゴカイ科	●	●	●	●	●	●
	カンザシゴカイ科	●	●	●	●	●	●
	イワフジツボ	●	●	●			
	サンカクフジツボ						
	イシガニ	●				●	●
	Phoronis属	●	●		●	●	
	裸喉綱		●	●		●	●
	イトマキヒトデ						
	シロボヤ	●	●	●	●	●	●
	ホヤ綱（群体性）	●	●	●	●	●	●
合計	23種	17種	17種	17種	11種	15種	16種

表2 目視調査による出現種一覧（2）

区分	種名	ケーソン 前面	間詰石	根固め ブロック
植物	シオグサ属			
	藍藻綱			
	珪藻綱	●	●	●
動物	海綿動物門	●	●	●
	ヒドロ虫綱	●	●	●
	タテジマイソギンチャク	●	●	
	イソギンチャク目	●	●	●
	アラレタマキビ			
	イボニシ			
	クロシタナシウミウシ			
	ミドリイガイ	●	●	●
	マガキ	●		
	ウスカラシオツガイ+ホトトギスガイ(マット)		●	●
	ミズヒキゴカイ科	●	●	●
	カンザシゴカイ科	●	●	●
	イワフジツボ			
	サンカクフジツボ		●	●
	イシガニ			
	Phoronis属	●	●	●
	裸喉綱	●	●	●
	イトマキヒトデ	●	●	●
	シロボヤ	●	●	●
	ホヤ綱（群体性）	●	●	●
合計	23種	14種	15種	14種

表3 坪刈りによる出現種一覧(1)

種名	遊水室内			遊水室内底面			ケーソン 前面	間詰石	根固め ブロック
	(Ⅰ)	(Ⅱ)	(Ⅲ)	(Ⅰ)	(Ⅱ)	(Ⅲ)			
1 ヒトリコシ			●						
2 イソギンチャク目	●	●	●	●	●	●	●	●	
3 ヒラムシ目	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4 紐形動物門	●	●	●		●		●	●	●
5 ウスビサラガイ科		●							
6 シマハマツボ						●			
7 シマメノウフネガイ	●	●		●			●	●	●
8 イボニシ	●	●	●	●		●	●		
9 ムギガイ	●			●			●	●	●
10 トウカシタガイ科								●	
11 裸鰓目	●	●	●	●	●		●		
12 カリカネエガイ	●	●	●	●					
13 サルボウガイ		●							
14 サルボウ属							●		
15 ムラサキガイ	●	●	●	●	●	●	●		●
16 ミドリガイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●
17 コウエンカワヒバガイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●
18 ヒバガイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●
19 タマエガイ		●	●				●		●
20 ホトギスカガイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●
21 ナミカシガイ							●		
22 マカキ	●	●	●		●	●	●	●	●
23 キクサ属					●				
24 ウスカシオツガイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●
25 ホンビノスカガイ								●	
26 アサリ	●	●				●		●	●
27 キヌマトイガイ	●							●	●
28 サメハダホシムシ属		●							
29 Eulalia属		●	●						
30 Harmothoe属	●	●	●	●	●	●	●	●	●
31 Lepidonotus属		●	●		●				
32 タンサコガイ科					●				
33 オビメコガイ科	●	●	●	●	●	●	●	●	●
34 Syllinae亜科	●	●	●	●	●	●	●		
35 ヒメコガイ	●		●				●		
36 アシナコガイ	●		●	●					
37 マサコガイ	●	●	●	●	●		●		
38 フツウコガイ			●			●			
39 クマトリコガイ				●	●	●			
40 ツルヒゲコガイ			●						
41 テンガクコガイ				●					
42 Eunice属	●						●	●	●
43 セクロイソメ			●				●		
44 Schistomeringos属	●	●	●	●	●	●	●		
45 Polydora属	●	●	●	●			●	●	●
46 Pseudopolydora属								●	
47 Cirratulus属									●
48 ミズヒゲコガイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●
49 Dodecaceria属	●	●	●				●	●	
50 Timarete属	●	●	●	●	●	●	●	●	●

表4 坪刈りによる出現種一覧(2)

種名		遊水室内			遊水室内底面			ケーソン 前面	間詰石	根固め ブロック
		(Ⅰ)	(Ⅱ)	(Ⅲ)	(Ⅰ)	(Ⅱ)	(Ⅲ)			
51	カスリオフェリア			●	●	●		●		
52	Amphitrite属	●	●					●		
53	Thelepus属	●	●	●		●		●		
54	フサコカイ科							●		
55	ケヤリ科	●	●	●	●	●		●		
56	エゾカサネカンザン	●	●	●	●	●		●	●	●
57	ウミグモ綱	●	●	●	●	●	●			
58	タデシマフシツボ		●							
59	アメリカフシツボ	●								
60	サンカクフシツボ	●				●	●	●		●
61	ナンオウフシツボ						●			
62	コノハエビ	●	●		●				●	
63	ウミナナフシ属	●	●	●		●		●		
64	シリケンウミセミ					●		●		
65	ツノオウミセミ							●		
66	トロノミ属							●		
67	イソヨコエビ	●	●	●	●	●	●	●		
68	メリタヨコエビ属			●			●			
69	マルハサミヨコエビ属		●					●		
70	テッポウエビ属		●							
71	イソモエビ属		●							
72	イクビホンヤトカリ							●		
73	コブカニタマシ属		●							
74	イッカクモガニ								●	
75	ヨツバモガニ	●	●	●				●		
76	イシガニ					●				
77	スヘスヘオウギガニ	●	●							
78	ヒライソガニ		●	●		●		●	●	
79	スネガイソガニ							●		
80	イソガニ	●		●						
81	イソガニ属				●			●		
82	アシナガハエ科							●		
83	フクロケムシ科	●	●	●		●	●	●		
84	アミメケムシ科	●	●	●				●		
85	ツノマタケムシ科	●	●	●	●	●	●			
86	フサコケムシ科	●	●	●	●	●	●	●		
87	トゲコケムシ科			●		●				
88	ヒラコケムシ科	●	●		●	●				
89	コブコケムシ科	●	●		●					
90	Phoronis属	●	●		●			●	●	●
91	イトマキヒトデ								●	●
92	Ophiactis属	●	●				●			
93	カタユレイホヤ	●		●				●		
94	シロホヤ	●	●	●	●	●	●	●		
95	シロホヤ科	●	●	●	●	●		●		
96	シロホヤ科(群体性)							●		
97	マホヤ科							●		
98	フクロホヤ科	●	●					●		
種類数		56	58	51	40	41	31	59	30	26

【写真】



写真1 ウスカラシオツガイ



写真2 エゾカサネカンザシ



写真3 ホトトギスガイ